

港新聞の発行目的

- まじめに生活し働く区民の立場で
- 真実を伝え、ともに考え、提案し
- よりよい港区づくりに貢献する

発行 **港新聞** (代表:飯田吉一)

〒552-0005 大阪市港区田中3-3-3 TEL・FAX:06-6571-4636

<http://osaka-minatonews.sakura.ne.jp/>

Eメール: yamaemi@bridge.ocn.ne.jp

毎月15日にホームページで発行 <冊子1冊300円,年間3000円>

港新聞が閲覧できる場所

港図書館(弁天2-1-5), 港区民センター(弁天2-1-5), 弁天町市民学習センター(弁天1-2-2-200), 各銭湯(朝日湯除く), 港区在宅サービスセンターひまわり(弁天2-15-1), 築港地域在宅サービスステーション(築港2-4-16), 港スポーツセンター(田中3-1-126), ほのぼの休憩所(八幡屋商店街内), 石炭倉庫(波除6-5-18), シネヌーヴォ(西区九条1-20-24), 韋駄天尊(繁栄商店街内), 珈琲館隠岐(磯路3-25-6)

交通事故のお悩み


どんな事でも相談下さい
自転車事故もお気軽に



行政書士のむら事務所
築港3-7-1-608 ☎6576-6078
<http://www.jiko110-nomura.com/>

被災地農民を支援します。
反原発の声をあげよう!

ご協力下さる方はご連絡下さい



三里塚産直野菜の会
磯路2-3-9(三社神社そば) TEL.6572-0130

ゆうやけ

★「また防災か…」と思われるかもしれませんが、東日本大震災から2年ということもあり、あえて今号も防災を前面に出しました。天保山第五コーポの避難訓練(1頁)でも、区役所主催の防災フォーラム(4頁)でも、東日本大震災発生時の生々しい体験が当事者の口から語られ、改めて胸を打ちました。そしてどちらの語り手も結びに発したのが「この犠牲を無駄にすまい」「しっかりした備えこそが犠牲に報いる道」という決意でした。まさに「国破れて山河在り」、そして、山河崩れても人在り。戦争にも自然災害にも、そして最後の敵である原発災害にも、どれほど時間がかかる

うと、日本は、日本人は、打ち克つでしょう。
★その大震災の被害者との意外な出会いに驚かされたのが「障害者面接会」(12頁)でした。聾啞者であるその青年は福島県で被災し、「お前は若いから放射能の影響が心配だ」と家族に説得されて関西へ越してきたとか。幾重にも重なる苦しみを負いながら、快活に対応してくれた真摯な姿が忘れられません。
★その道の第一人者が発する言葉には何とも言えぬ味があります。「なにわの名工」に選ばれた室田大祐さんへの単独インタビュー(35頁)。日本料理の楽しさ、奥深さ、そして究極の目標とは一。2回に亘ってお楽しみ下さい。